

令和3年度 学校関係者評価結果

1. 評価日：令和4年3月4日（金）15：30～17：00 Web会議
2. 評価者：6名（5名出席、1名欠席）
 - 1）関連業界関係者：社会福祉法人善通寺福祉会特別養護老人ホーム仙遊荘 施設長
 - 2）高等学校関係者：香川県立善通寺第一高等学校 校長
 - 3）卒業生：NHO 四国こどもとおとなの医療センター 副看護師長
 - 4）教育関連有識者：四国学院大学 教授
 - 5）看護管理者：香川県立丸亀病院 看護部長
 - 6）地域住民：クラブ講師（欠席にて書面評価）
3. 学校出席者
 - 1）副学校長
 - 2）教育主事2名
 - 3）事務主任
4. 評価対象：令和3年度 学校運営方針の取り組み実施状況
5. 評価基準：4段階評価及び総評
 [4:達成できている][3:ほぼ達成できている][2:やや達成できていない][1:達成できていない]
6. 評価結果：

運営方針1. 自ら学び続け、看護の質向上を図る力を持った看護専門職を育成する		自己評価	関係者評価
		3.3	3.3
1)	主体的な学びを導く教授方法の検討と実施	3.3	3.3
2)	看護技術教育の強化	3.0	3.0
3)	実習教育の強化	3.4	3.3
4)	看護師国家試験対策の強化	3.5	3.7
5)	保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴う新カリキュラムの構築	3.2	3.3
6)	教科外活動を活用した看護専門職としての能力育成	3.2	3.3
総評	<p>学生がアクセスしやすいよう IT 学習環境を整備し、まず教員が IT 環境を使いこなす努力をしている。オンライン (OL) 授業や Moodle による e-ラーニング運用等の臨機応変な対応とブレイクアウトセッションの活用等、学生に対して一方的にならない双方向の教育を工夫している。卒業後の進路決定を重視した国家試験対策を講じており、今後も1年次からの国家試験への意識づけと効果的な Moodle 活用を期待する。</p> <p>実習及び技術教育は、感染対策を考慮した実習や疑似実習、技術場面の ipad 撮影動画の活用等、技術教育の強化を図る取り組みに工夫がみられる。特に技術演習の補助は、技術の習熟度を上げるためプリセプター制度のように、異学年の学生が患者役を行うことで、技術実施者の1年生と患者役の2～3年生双方が客観的に技術を捉えて振り返る機会になり、共に学びが得られると考える。臨地実習においては、実習病院と連携がとれ、実習指導者会議開催や指導案に基づく指導により学生が主体的に臨地実習に取り組める体制が構築されている。特に看護師育成は実践の比重が高いが、学生との面談を通じて進められていることを高く評価する。一方、学生の技術体験が乏しく学生自身が不安を抱いて就職する状況下では、病院側は新人教育のあり方を考え直す必要も生じ、学校と就職先の情報共有がこれまで以上に重要となる。</p> <p>教科外活動は実施の工夫がなされており、また、新カリキュラムは会議等で協議され、提出スケジュールに従い進められたことを評価できる。</p> <p>【課題】</p> <p>e-ラーニングの活用の実際を随時確認して活用の実情を把握し、e-ラーニングが苦手な学生へのフォロー体制をとる。制限される臨地でいかに学生が技術を経験できるか、指導者と検討し、チャンスを活かした看護実践力の育成を目指す。また、学生自身の技術習得の不安とモチベーションにも介入する。</p>		

運営方針 2. 組織の活性化を図り、教育の質向上を目指す		自己評価	関係者評価
		3.1	3.3
1) 職場環境の調整による職場の活性化		3.2	3.3
2) マネジメント力向上による組織の活性化		3.2	3.5
3) 教育倫理に基づいた教育の実施による教育の質向上		3.4	3.7
4) 看護教員能力開発プログラム (TNAD) に基づく能力の育成		3.0	3.0
5) プロジェクト活動の遂行による組織の活性化と教育の質向上		2.7	2.8
6) 研究授業および研究の実施による教育の質向上		2.9	3.2
総評	<p>教員会議で学生個々への対応や臨地実習の課題解決を検討している。状況に応じて情報共有の方法をホワイトボード活用に変更したり、日々のミーティング方法を工夫する等、教職員間での情報共有、業務調整により職場活性が図れている。職員間の共通認識と共通理解は、職場環境をより良くするために必須であり、共通理解の中で、問題の見える化は組織全体の課題の見える化につながるため、一つひとつ丁寧に課題分析していただきたい。</p> <p>教員の学生への発信が問題になる場面が発生しておらず、倫理的対策やハラスメント防止ができています。学生にはアサーティブコミュニケーションで関わり、個々の受け止め方や学生からの発信を上手くキャッチできるよう、今後も精神的なサポートや配慮を継続していただきたい。臨地実習の際には、教員の姿勢やロールモデルで、学生の医療者として持つべき人間性が養われると感じているので、今後も継続を期待する。</p> <p>教員は授業や臨地実習指導等で多忙な中、専門領域での研究授業や研究成果の発表を行い、研修の受講や TNAD を確認し、能力開発のために自己研鑽し教育の質向上を目指している。来年度も積極的に取り組みを継続されることを期待する。教授方法改善のための計画的な研修は指導力向上につながるもので、プロジェクトとして機能させてほしい。また、防災訓練については、寮生が多いので予期できない震災や地理的に心配な水害を懸念しなければならない。</p> <p>【課題】</p> <p>OL 授業等における機器の管理や準備に関する役割分担が担当者の過負担とならないよう、全員が対応できる簡易な使用管理マニュアルを各教室に常備する。教員研修受講後の各自の取り組みを、学校全体の取り組みにつなげて組織活性化を図る。TNAD の評価を教員の校務役割の選択に活かしていく。また、防災訓練を小規模でも定期的に行い、改善事項をマニュアルに反映させ、防災意識を高めていくように引き続き取り組む。</p>		

運営方針 3. 地域のニーズに基づき、地域に貢献できる学校運営に取り組む		自己評価	関係者評価
		3.2	3.4
1) 学校行事による地域との交流		3.0	3.5
2) 広報活動や地域活動への参画による地域貢献		3.1	3.2
3) 国立病院機構および地域の看護師確保		3.4	3.5
総評	<p>コロナ禍で地域との交流や活動の困難さはあるが、どのようにすれば交流が可能かを考え、OL を活用した工夫で交流につなげている。学生自身が、対面での交流しか考えられないということではなく、どうすればできるかを真剣に考え実施につながった経験を、柔軟に物事に取り組める一つの糧にしてほしい。また、次につなげるために、相手にどう伝わったかを振り返り、自分たちの活動をどうアピールしていくかを考える機会とし、今後も実施方法を工夫して取り組んでいただきたい。</p> <p>ホームページ (HP) と学校案内のパンフレットは、母体病院とのデザインの統一性があり明るいイメージで、写真掲載が多く学校の様子がよくわかる。校外への発信方法として HP の活用は重要で、外部への第一情報源となるため、大いに活用すると同時に、古いデータは更新を心掛けてほしい。しかし、</p>		

HP のタイムリーな更新による情報発信の工夫が必要な一方で、その作業は大変であり、本務の妨げにならないように無理しないことも大切である。

オープンカレッジや web 説明会等、学生確保の工夫がされており、国立病院機構（NH0）や地域の看護師の確保への取り組みは評価できる。学校や母体病院、NH0 の連携、香川県内への就職指導や体験学習などの取り組みにより、NH0 施設の受験者数は目標値をほぼ達成し、香川県内就職内定者数は半数を超えている。学生個々への指導や支援が継続して行われ、看護師確保につながっている。2年生を対象とする学校内就職説明会の時期も適切であり、今後も学生個々への指導や支援の継続を期待する。自施設で働く看護師として、学生にここで働きたいと思ってもらえるような対応の必要性を改めて感じる。

【課題】

学生自治会主催の行事で OL による交流を図る際、画面の向こうにいる相手の反応を読み取った対話力が身につくよう、実施後タイムリーにリフレクションを行う。また HP 更新年間計画を立て、“見せる HP” に重点を置き、即時更新を目指す。

運営方針 4. 学生確保と経費削減に取り組み、学校経営の安定化を図る		自己評価	関係者評価
		3.1	3.3
1)	学生確保による学校経営の安定化	3.2	3.5
2)	自己収益による学校経営の改善	2.5	2.8
3)	経費削減による学校経営の改善	3.6	3.7
総評	<p>少子化による学生数減少の中での学生確保はどの学校においても喫緊の課題である。医療看護系の志望者が減少している状況の中で、いかに看護職の魅力や普通寺の看護学校で学びたいと志願する人材を確保するかは、学校関係者だけでなく、地域全体の課題でもある。普通寺市に魅力を感じ、十分に看護を学べる環境があり、経済的にもお財布に優しいという条件のもとで、受験する学生自身の心に響き、保護者も任せて安心できると思えることが必要である。</p> <p>広報活動として、県内外の高校訪問や在籍する学生の母校訪問などが受験者数につながっている。OL による進路相談座談会開催は、高校生や保護者にとって貴重な場となるため継続実施が望ましい。特に HP の活用は最も手短で効果大きい。また、オープンカレッジはできるなら感染対策を講じた実施が望ましい。できない場合は OL で複数回、少ない人数での実施が効果的である。入学予定者へ入学前課題の提示は入学前の心構えもできるため、定着すると良い取り組みとなる。</p> <p>カリキュラム改正による科目数増加等を考慮すると授業料の増額、また寄宿舎料の増額は適切である。印刷方法の節約、使用電力量の回覧・掲示による教員や学生への周知により、学校全体で経費削減に対し意識化できている。様々なデータから経費削減の取り組みの成果を読み取り、経営改善の認識の共有が窺える。学生にとっても経済面を考えた行動につながり就職後も役立ち、SDG s を教育する観点からも重要である。今後、データ化が進むことでのペーパーレス化や、業務調整、OL 活用による作業負担の軽減や経費削減を期待する。</p>		
	<p>【課題】</p> <p>ペーパーレス化の推進に関しては、回覧の必要な内容についての整理、e-テキストの活用工夫による講義資料の精選、またミスプリの削減と再利用も含めて引き続き取り組む。経費削減については、適正な物品管理体制を機能させ、もう少し学生も巻き込みながら学校全体で更に意識して行動定着できるよう取り組む。</p>		